倫理綱領

萌葱の郷は、自閉症・子育て総合支援センターとして、保育、教育、子育て支援、早期療育、生活支援、就労支援、余暇支援、相談支援、普及啓発、専門家養成等の機能をライフステージを通して総合的に提供することで、障がいのある無しに関わらず共に暮らせる共生社会の実現を目指します。

1 個人の尊重

私たちは、利用児・者本位の立場から、一人ひとりの個性と自己決定を最大限に尊重し、主体的に生きられるよう支援します。

2 人権の擁護

私たちは、利用児・者に対するいかなる差別、暴力、虐待、人権侵害も許さず、人としての尊厳を守るため細心の注意を払います。

3 合理的配慮

私たちは、利用児・者一人ひとりの特性や場面に応じて生じる社会的障壁や生きづらさを取り除くため合理的配慮を実践します。

4 安全・健康への配慮

私たちは、災害への備えや環境・保健・衛生などの向上に努め、利用児･者の生命を守り、心身の健康が維持･向上するよう支援します。

5 社会参加の推進

私たちは、利用児・者が年齢や障がいの状態などに関わりなく、地域社会を構成する一員としての市民生活が送れるよう支援します。

6 守秘義務の順守

私たちは、利用児・者のプライバシーを尊重し、職務上知り得た個人の情報や秘密を守ります。なお、退職後もその義務を負います。

7 専門性の向上

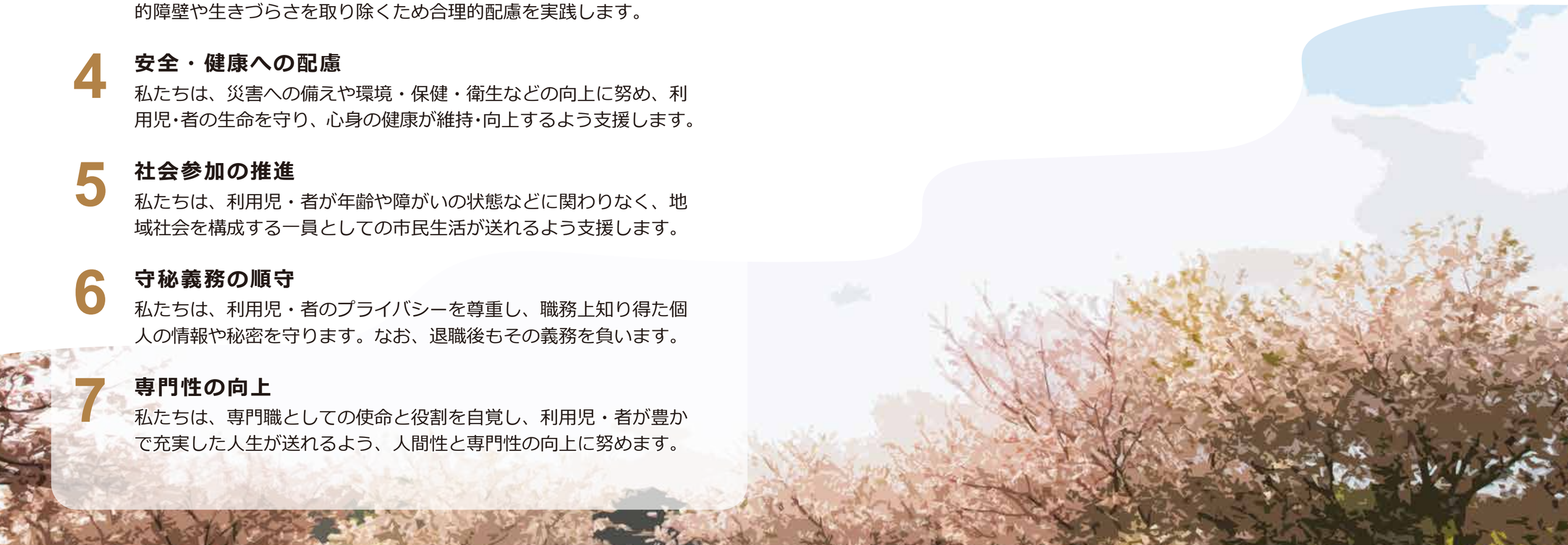
私たちは、専門職としての使命と役割を自覚し、利用児・者が豊かで充実した人生が送れるよう、人間性と専門性の向上に努めます。

社会福祉法人

萌葱の郷の誓い

共に育ち、

暮らせる社会の実現を目指して



行動理念

専門職としての倫理と資質の向上のために不断の検証と研鑽を重ねて、質の高い保育・教育・支援を提供し、誰もが共に育ち、豊かに暮らせる社会を実現するために、ここに行動理念を定めます。

1. 運営方針や事業計画は、定期的に利用児・者、保護者・家族に説明し、意見や要望を聞く機会を設けて、その意思を反映する。
2. 個別支援計画や支援内容は、必ず利用児・者、保護者・家族に説明し、意見や要望を聞いたうえで、同意のもとに行う。
3. 保育や教育、支援に当たっては、充分に利用児・者、保護者・家族に説明し、選択と自己決定の機会が得られるようにする。
4. 利用児・者に対しては、年齢に応じた呼称や接し方を徹底し、一人ひとりに寄り添い、好みや嗜好、感性を尊重する。
5. 利用児・者に対しては、偏見や先入観を持たず、公正・公平に接し、丁寧な関りを心がけ、敬意を持って支援する。
6. 常に災害や事故などに対する備えを見直し、全職員に周知することで、全職員が一体となって的確かつ迅速に行動する。
7. 法令・社会規範・社会的倫理を遵守し、危機管理やヒヤリ・ハットに取り組み、事故などの不測の事態を未然に防止する。
8. 利用児・者の健康管理に細心の注意を払い、必要に応じて適切な医療が受けられ、健康的な生活が送れるよう努める。
9. 地域の文化や生活習慣を反映した、年齢にふさわしい暮らしを保障し、あらゆる場面で社会参加の機会が得られるよう努める。
10. 地域ボランティアや実習生を積極的に受け入れるなど、地域社会との交流を図り、理解を深めて、開かれた施設づくりに努める。
11. 利用児・者の個人情報の管理を徹底し、情報の共有に際しては、その秘密を保持するよう最善かつ細心の注意を払う。
12. 専門職者としての責務を自覚し、倫理と専門性の確立にむけて、絶えず検証・研鑽し、職員相互の啓発に努める。
13. 民主的な職場運営により、職員相互の意思疎通とチームワークの醸成を図り、全職員の合意に基づく統一した支援に努める。

保育・教育・支援の原則

1. 安心感と信頼関係に基づき、清潔で快適・安全な生活環境を提供する。
2. ごく当たり前の生活（ノーマライゼーション）と個別的な配慮を保障する。
3. 手ごたえの持てる活動や外出の機会を通して社会性や意思決定を育む。
4. 利用児・者の真のサポーターとなり、愛情を持って、見放さない。
5. 個別支援計画に基づいて、余裕のある日課（ルーチン）を組み立てる。
6. 遊び、生活、活動等での相互作用を通して、共感性や社会性を育てる。
7. 特定の療育理論や技法に囚われず、幅広く学んで実際の場面で応用する。
8. 行動の現象面だけを捉えず、環境や心理面での原因や背景を考察する。
9. 支援にあたっては、記録→分析→仮説→実践→検証を繰り返す。
10. 職員の勤務負担の軽減を図り、過労やメンタルに配慮する。
11. 事例検討を重ねて支援方法を統一し、チームとして支援する。
12. 職員自身の感情をコントロールし、穏やかで肯定的な態度で接する。
13. 利用者の立場に立って、常に自らの支援を振り返り検証する。
14. 丁寧に説明するなど、折り合いがつけられるように関わる。
15. 医療と連携し、脳科学や神経生理学などの新たな知見に学ぶ。